

国立と決める前に読んでおきましょう

学齢期になると子どもは小学校に進学しますが、大部分は市や区、町や村などの地方公共団体が設立・運営している公立小学校に入学します。公立小学校は原則として通学区域が定められていますので、進学するときは地区の学校に通わざるをえません。ですから、もしそれ以外の小学校を選ぼうと思ったら、引越しをするか、国立・私立の小学校を受験することになります。

この「受験」というワンクッションが後に述べる「国立」の特異性にもつながるのです。東京都内では、少子化の影響などで小学校の統廃合などもみられますが、国立小学校の人気は衰えることがありません。その原因が先程の入試制度にもあります。希望者が多いので入試によって選別をする。その結果、ある一定レベルの児童の集団を形作ることができる。そう、もしその気になれば、知能レベルの高い集団に対しての授業が展開できるわけです。そこには、世間で言われるような学力格差はありませんから、できない子に進度を妨害される心配もありません。まして、国立小学校は原則として国立大学に付設された教育研究機関として運営されているものですから、さまざまな教育的実験などが可能で、公立小学校とはあきらかに一線を画す教育が実践できる環境にあります。また、各校には昔からの伝統や実績に加え、地域のリーダーとしてのプライドを感じることもできます。それに加えて教員が優秀であること

国立小学校を受けようか

も大きな魅力となります。

では、「国立」を志す理由をまとめてみましょう。

- ・ 良い教育機関で（良い先生のもとで）わが子を学ばせたい
- ・ 伝統や実績がある。教育環境も整っている
- ・ （地区の）公立小学校の評判が芳しくない
- ・ 私立のような学費負担がなくてすむ
- ・ 中高までの一貫教育の中で、受験勉強をしなくてすむ
- ・ 中学受験より簡単そう（または、親の意志で通過できそう）
- ・ 上の学校（高校）が、大学受験の名門として名高い

以上が大きな理由でしょうが、単純に制服がかっこいいとか、ブランド意識であったりとか、なかには、「私は入れなかったから」などという理由もあるようです。しかし、どんなことでも良い面もあればその逆もあるのが世の中です。そこで、次に国立小学校のマイナス要素も探ってみたいと思います。

国立の光と影

毎年、三月頃雑誌等に「高校別東大合格者」が掲載されます。開成・麻布・武蔵の御三家や灘、ラ・サールなど各地の名門私立に加え、最近では女子の台頭も目覚ましく、特に女子御三家のひとつ、私立桜蔭高校の実績には驚かされます。しかし、主に都内の国立校の頑張りも見逃せません。ベスト20には筑波大附属駒場高校、筑波大附属高校、東京学芸大附属高校の名前があります。もちろん、東大以外にも各校がそれぞれ上の大学や、全国の有名大学に多くの合格者を出しているわけです。そのあたりの実態を東京の例を通してもう少し検証してみましよう。

先程の東大合格者数上位校を都内でみてみると、私立Ⅱ開成、麻布、駒場東邦、桜蔭、豊島岡、女子学院等となり、国立Ⅱ筑波大附属駒場、学芸大附、筑波大附となります。しかし、私立でも小学校を併設している学校の名はないため、俄然国立優位というわけです。しかし、待ってください。確かに筑波大附（大塚）や学芸大は小学校からありますが、同じ筑波大でも駒場は中学からの学校です。また、筑波大附を例にとっても、小学校から百六十名（現在は百二十八名）、中学校では約六十五名、そして高校から約八十名が入学してきますので、小学校からの一貫教育を受けた者は約半数ということになります。学芸大となるともっと厳しい現実があります。

国立小学校を受けようか

東京学芸大附属小学校は都内に四校あります。竹早、世田谷、大泉、小金井です。その四校の小学校一学年の児童数の合計は約三百七十名。いずれも系列の附属中学があり、中学受験で入学してくる生徒が合計で一学年約二百四十名です。大泉だけは上位系列校が中高一貫の国際中等教育学校ですから、中学への連絡進学ができれば高校受験の心配はいらなくなります。他の三校から系列高校への進学を目指すとなると大変です。というのは、学芸大附属と名の付く高校は大泉を除くと世田谷の一枚しかないからです。この高校へ進学できるのは内部試験に合格した二百四十名のみ。この二百四十名の枠を争うわけですが、普通に考えると三年前に厳しい試験を乗り越えてきた中学受験組にアドバンテージがあるのは容易に理解できると思います。この例からもわかるように、どの国立小学校でも入学後になだらかなエスカレーターが用意されているわけではないということを知っておきましょう。千葉大教育学部附属のように中学までで途切れるエスカレーターもあります。また、先程の東京学芸大附属のように、小学校六年間終了間近にそっと肩たたきをされる場合や、中高進学に際して厳しい試験が実施される学校など、「国立」は決して甘くはありません。